

荒川ハンノキプロジェクト & 荒川の草花を育てようプロジェクト

近隣の小中学校による環境学習 川島町立 出丸小学校と上尾市立 太平中学校 科学部の皆さんが荒川の自然に関する環境学習を行いました。

川島町立 出丸小学校 5年生・6年生 -9月26日(金)

5年生と6年生が合同授業を実施。サポーターから三ツ又沼ビオトープの自然環境の保全において困っていることを説明し、解決方法を考えて欲しいと投げかけました。子どもたちからは、「外来植物の抜き取りなど、作業をやってよかったことはなんですか」等の質問がありました。



上尾市立 太平中学校 科学部 -10月29日(水)

サポーターから外来植物・動物の紹介や自然を守る理由について講話が行われました。保全管理作業で高さ5mのオオブタクサ(北米原産)があったことを紹介し、5mのヒモを広げてどれだけ大きいのか確認すると、「大きい!」と驚きの声がありました。



荒川ハンノキプロジェクトは、埼玉県の蝶「ミドリシジミ」のために、三ツ又沼ビオトープにハンノキの林を取りもどすプロジェクトです。荒川の草花を育てようプロジェクトは、外来植物*が増えるのをおさえるために、三ツ又沼ビオトープ周辺にもともと生えていた野草を増やす取り組みです。サポーター事務局では、この取り組みに参加する企業・団体・学校を募集しています。

*外来植物：外国から日本に持ちこまれた植物



【三ツ又沼ビオトープ】

上尾市と川越市、川島町のさかい目にある、荒川の豊かな自然が守られている場所です。いつでも、だれでも自然に親しむことができます。

【環境サポーター大募集!】

自然を守る作業や自然学習の指導をする「あらかわ市民環境サポーター」を募集しています(荒川上流河川事務所内のサポーター事務局にて登録)。地域の自然を守るためには、地域の方の力が欠かせません。自然が好きの方、荒川が好きの方、体を動かしたい方、いろいろな人と交流したい方、ご連絡をお待ちしています!

色々な方々が関わっています

三ツ又沼ビオトープに残された荒川の貴重な自然を守るために、色々な方々が三ツ又沼ビオトープに関わっています。

学校

埼玉県立 いずみ高等学校 荒川の草花を育てようプロジェクト

10月8日(水)

在来植物^{*}で外来植物を抑えるために連携して実験している埼玉県立いずみ高校の生物サイエンス科 2 年生の皆さんの活動をご紹介します。

^{*}在来植物：日本にもともと生えている植物



在来植物による外来植物の抑制の効果を調べるための実験区の管理作業と在来植物のイヌタデの個体数調査を行いました。イヌタデ(上記写真)は、赤いつぼみや桃色の花をつけ、順調に生育していました。また、外来植物のオオブタクサを皆で協力して取り除きました。

団体

ボーイスカウトさいたま 11 団

保全管理作業の体験

9月28日(日)

ボーイスカウトさいたま 11 団の子どもたちがサポーターと一緒に自然観察やオオブタクサ、セイタカアワダチソウ(ともに北米原産)などの外来植物の抜き取り作業を行いました。誰が一番大きい外来植物をとれるか競争し、全員が背丈の2倍以上あるオオブタクサを抜き取っていました。



団体

日本ビオトープ管理士会

実地研修

10月18日(土)

ビオトープの専門家「ビオトープ管理士」による実地研修が行われました。この研修は、「生物多様性保全の実地研修」として、土木学会にCPD(継続教育)として認定されました。2班に分かれて、外来植物のマグワ(中国原産)の伐採や他の植物を覆ってしまったカナムグラの抜き取り作業をしました。最後は、三ツ又沼ビオトープをこれからどう守っていくかについて意見交換をしました。



三ツ又沼ビオトープトピック ガガイモ

キョウチクトウ科 旧ガガイモ科 実のはじける時期 12月頃～

ガガイモは秋に実をつけ、冬に実がはじけます。はじけた実の中には、たねのついた白い綿毛がぎっしり詰まっていて、風が吹くとふわふわと飛んでいきます。ツル植物なので、他の植物に絡まって、少し高いところに実ができてることが多いガガイモ。白い綿毛はとてもさわり心地がいいので、12月以降に訪れる方は、ぜひ探してみてください。